

平成 29 年度 大商学園高等学校 学校評価報告書

1 目指す学校像

- 「人格教育」を主眼とし、有能で品格のある人材の育成
- ①学力を向上させ、生徒の進路希望を実現する学校。
 - ②基本的な生活習慣の確立を図る学校。
 - ③学校行事、部活動を充実させ、自律した生徒を育成する学校。

2 中期的目標

- 1 学力向上と授業改善に取り組む。
 - (1)生徒の学力の向上を目指し、教員の授業力向上に取り組む。
 - (2)教員同士の公開授業・研究授業に取り組む。
 - (3)生徒の学力に応じた授業改善に取り組む。
 - (4)授業改善のため、生徒による授業アンケートを実施する。
 - (5)家庭学習の定着化の取り組みを充実させる。
 - (6)基礎学力の学び直しの取り組みを充実させる。
- 2 生徒の規範意識を高め、教職員全体で頭髪・服装・遅刻・マナー等の生活指導に取り組む。
 - (1)遅刻指導を徹底し、生活習慣の確立に取り組む。
 - (2)登下校の生徒のマナーを高める。
 - (3)日常の言葉遣いを徹底し、正しい言葉遣いの意識を高める。
- 3 生徒の進路意識を高め、進路希望を実現する。
 - (1)放課後や長期休業中の進学講習を充実させる。
 - (2)3年間を見通した「総合的な学習の時間」で、生徒の進路意識を高める。
 - (3)自習室の効果的な利用を図る。
 - (4)簿記や英検などの資格取得の取り組みを充実させる。
- 4 生徒の自主活動を充実させ、自主・自律の精神を養う。
 - (1)部活動の加入率を増やし、部活動を活性化させる。
 - (2)体育祭・文化祭などの学校行事を充実させ、生徒の主体的な活動を支援する。
 - (3)国際交流を活発に行い、国際感覚を身に付ける。

3 学校教育自己診断の結果と分析・学校評価委員会からの意見

学校教育自己診断の結果と分析 (生徒による授業アンケートは平成 29 年 11 月実施) (学校教育自己診断は平成 29 年 12 月実施)	学校評価委員会からの意見 (平成 29 年 10 月、平成 30 年 3 月実施)
<p>【学校生活の満足度】</p> <p>「大商学園での高校生活に満足している」の肯定感は、73.2%あり、昨年よりも 1.1%増えている。また、「大商学園の先生は分かりやすい授業を行っている」の肯定感も、77.6%あり、昨年よりも 0.4%増えている。本校の教育活動が一定の成果を上げてきている。今後、生徒の満足度を 75%以上に引き上げたい。</p>	<p>○授業に対する生徒の肯定感が 4 年連続で増えているのは、先生方の努力の賜物である。</p> <p>○「学力を付けるための宿題や課題が多く出されている」の肯定感が毎年増えているのは、生徒の層の変化によるところが大きいのでは。</p> <p>○「体育祭の満足度」が 67.8%、「文化祭の満足度」が 70.1%と少し増えている。生徒会の努力が効果をあげている。</p>

<p>【学習活動】 「学力を付けるための宿題や課題が多く出されている」の肯定感は、76.8%あり、昨年と比べて0.4%増えている。今後、生徒の家庭での学習時間を増やす取り組み強化し、80%を目指したい。</p> <p>【進路指導】 「進路について、先生は適切なアドバイスを与えてくれる」の肯定感は69.9%と昨年とほぼ同じである。今後とも、より丁寧なアドバイスを全教職員で行い、肯定感75%目指したい。</p> <p>【学校行事】 「自分のクラスは行事に積極的に取り組んでいる」の生徒の肯定感は78.9%あり、昨年とほぼ同じである。学校行事は、数年前と比べて、より充実してきている様子が伺われる。</p> <p>【部活動】 「学校の部活動は活発である」の肯定感は、生徒も保護者も95%もあった。部活動は大変活発である。</p>	<p>○夏休みに東北地方へボランティア活動に6年連続で参加しているのは凄いことである。女子の参加も出ている。</p> <p>○四年制大学への合格実績が大きく上昇したのは、地道な先生方の取り組みの賜物である。関西八私大の合格者数88名は過去最高であり、4年前の約3倍となっている。</p> <p>※主な四年制大学合格実績（ ）内は合格者数 早稲田大学（1）、同志社大学（1）、関西学院大学（5）、立命館大学（4）、関西大学（11）、近畿大学（30）、龍谷大学（6）、京都産業大学（26）、甲南大学（5）等。</p> <p>○大商学園高校展は、文化系部活動を活性化するという意味で大きな成功であった。また、千里中央で、ブラスバンド部の演奏やダンス部がパフォーマンスを行ったのはよい取り組みであり、大商学園に対する評価が高まると思う。</p> <p>○学校教育自己診断の生徒のアンケート結果は、学校生活全般に対する肯定感が5年連続で増えている。これは、学校が良くなってきていることのあらわれである。</p> <p>○旧第1学校の公立・私立合わせて23の高校の中で、大商学園は遅刻をする生徒が5年連続で一番少ない高校になっている。生徒指導の取り組みの大きな成果である。</p> <p>○登校中の生徒の表情が大変良いと、地域の方からの評判も良くなっている。</p>
---	---

4 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み状況	評価指標	達成状況及び今後の改善方策
学力向上と授業改	(1)教員の授業力向上 (2)家庭での学習時間の増大 (3)学び直しの取り組みの充実	①予備校が実施している授業研修会に各教科の教員を参加させる ②11月に教員同士の公開授業に取り組み、かつ、各教科ごとの研究授業を実施する。お互いの授業を参観することによって、教員の授業力を向上させる。 ③生徒による授業アンケート	①授業研修会に参加した教員の数。 ②何名の教員が他の教員の授業を参観したか、また、研究授業を参観した教員の数。 ③生徒の授業アンケートで、分かりやすい授業の肯定率。	① 河合塾、駿台予備校の高校教員を対象にした授業研修会に各教科ごとに1～3名、合計14名の教員が参加し、その内容を教科会議で報告した。 ②非常勤講師を含め

<p>善 に 取 り 組 む</p>		<p>を実施し、教員の授業改善の参考資料とする。</p> <p>④週末課題を生徒に配布し、週明けに回収することによって、生徒の家庭での学習時間を増やす。</p> <p>⑤毎日終礼後、ベネッセの教材を使って、基礎学力の学び直しの取り組みを行う。</p>	<p>④週末課題の提出率。</p> <p>⑤学び直しへの生徒の取り組み状況。</p>	<p>た84名の教員が他の教員の授業を参観して、その感想を教頭に提出した。また、各教科で1名、合計8名の教員が研究授業を行い、79名の教員が研究授業を参観した。教科会議で研究授業について意見交換を行った。</p> <p>③生徒の授業アンケートで、授業が分かりやすいの肯定感は77.6%あり、昨年に比べて0.4%増えている。</p> <p>④週末課題の提出率は、1・2年生全体で98.8%で、ほぼ昨年年みである。</p> <p>⑤生徒の学び直しの取り組み状況は大変良好である。H28年度から初めてスタディーサポートを実施したが概ね良好な数値が出ている。</p> <p>※全体として、本年度の目標は概ね、達成されたと思われる。</p> <p>※今後の改善方策</p> <p>①予備校での授業研修に参加した教員に職員会議で報告して貰い、全教職員で共有する。</p> <p>②研究授業での各教科で議論して貰った内容を職員会議で報告をし、学校全体の</p>
--	--	---	--	---

				<p>ものとして共有する。</p> <p>③授業アンケートで肯定感の低い教員に対して、管理職が授業を見て指導する。</p> <p>④学び直しの問題を定期考査に入れて学力の向上を図る。</p>
<p>2</p> <p>生徒の規範意識を高め、教職員全体で頭髪・服装・遅刻・マナー等の</p>	<p>(1)遅刻指導の徹底。</p> <p>(2)登下校中の生徒のマナーを高める。</p>	<p>①毎朝と下校時に、服部天神駅周辺に教員が立ち、登下校指導を行う。</p> <p>②毎朝、校門前等に教員が立ち挨拶運動を行う。</p> <p>③遅刻した生徒に対して担任の個別指導を徹底して行う。</p>	<p>①遅刻者数を北摂ブロックの公立・私立合わせて23高校中、5年連続で最も少ない学校を目指す。</p> <p>②学校教育自己診断で、「生徒はよく挨拶をする」の肯定感を95%以上にする。</p>	<p>①平成29年度も、北摂ブロックの公立・私立合わせて23高校中、生徒100名あたり遅刻者数が5年連続で最も少ない学校となった。</p> <p>②学校教育自己診断で、「生徒は挨拶をよくする」の肯定感は95.4%あった。昨年とほぼ同じである。</p> <p>※本年度の目標はほぼ達成されたと思われる。</p> <p>※今後の改善方策</p> <p>①遅刻の少ない生徒を表彰し、全校生徒の意識改革を図る。</p> <p>②登校・下校中のマナーだけではなく、電車中でのマナーを高めるべく、教員が同乗して指導を行うことも検討する。</p>

生活指導に取り組む				
3 生徒の進路意識を高め、進路希望を実現する	<p>(1)長期休業中・放課後の進学講習を充実させる。</p> <p>(2)3年間を見通した「総合的な学習の時間」を充実させ、生徒の進路意識を高める。</p> <p>(3)自習室の効果的な利用に取り組む。</p>	<p>①進学講習について、各教科まかせにするのではなく、進路指導部として責任を持った進学講習にしていく。長期休業中の講習の講座を目標別・進路別に開講する。</p> <p>②「総合的な学習の時間」をドリーム&サポートと名づけ、生徒の進路意識を向上させるための時間として取り組む。</p> <p>③大学見学ツアーを実施し、生徒の進路意識を高める。</p> <p>④生徒が自習しやすいように、各教科の教員が随時、自習室にいるようにする。</p>	<p>①進学講習の担当者にシラバスを提出させ、進路指導部が進学講習の中身を把握する。</p> <p>②学校教育自己診断で、「生徒の進路実現に向けて高い目標を持った授業が行われている」の肯定感を70%以上にする。</p> <p>③大学見学ツアーを夏休み前に実施し、生徒の意識改革に取り組む。</p> <p>④学校教育自己診断で、「自習室は利用しやすい環境である」の肯定感を70%以上にする。</p>	<p>①担当者全員がシラバスを提出して進学講習を行った。夏季講習は進路別・目標別の講座を開講した。</p> <p>②学校教育自己診断で、「生徒の進路実現に向けて高い目標を持った授業が行われている」の肯定感は73.5%と昨年よりも2.1%上昇している。</p> <p>③6月8日(金)に1年生全員がクラスごとに分かれて同志社など11の大学を訪問した。</p> <p>④学校教育自己診断で、「自習室は利用しやすい環境である」の肯定感は64.3%で、昨年とほぼ同じである。70%には達しなかった。</p> <p>※本年度の目標は達成されたとは言えない。</p> <p>※但し、大学合格実績は大きく伸びた。</p> <p>※今後の改善方策</p> <p>①進学講習のシラバスの中味の吟味が必</p>

				<p>要である。</p> <p>②大学合格実績は大きく向上したが、今後は、国公立大学を増やしたい。</p> <p>③今年も、自習室に大学生の学習チューターを常駐させて、生徒の質問に答えさせた。</p>
4	<p>(1)部活動を充実すべく、部活動の加入率を増やす。</p> <p>(2)学校行事の活性化を図る。</p> <p>(3)国際交流を活発に行う。</p>	<p>①新入生歓迎会やクラブ紹介を充実させ、部活動の加入率を高める。</p> <p>②各部の取り組みを生徒会新聞等で紹介し、生徒に部活動への興味を持たせる。</p> <p>③11月に千里中央のコラボ会館を借りて、「大商学園高校展」を開催し、文化系部活動の発表の場とする。</p> <p>④体育祭の応援合戦を新たな形の応援合戦にすべく、他の学校の応援合戦の様子を、本校の生徒に紹介し、団ごとの競争意識を高める。</p> <p>⑤文化祭に賞を取り入れ、クラス間同士で競争させることによって、質的向上を目指す。</p> <p>⑥9月に、オーストラリアのマゼノド高校生が本校に来てホームスティしながら交流する。</p>	<p>①部活動の加入率を60%以上にする。</p> <p>②学校教育自己診断で、「体育祭は満足した」「文化祭は満足した」の肯定感を70%以上にする。</p> <p>③マゼノド高校以外の海外の高校生とも交流を行う。</p>	<p>①部活動の加入率は58.7%であった。昨年とほぼ同じである。目標には達しなかった。しかし、女子サッカー部が全国選手権でベスト4に入った。</p> <p>②学校教育自己診断で、「体育祭は満足した」の肯定感は67.8%あった。また、「文化祭は満足した」の肯定感は70.1%あった。文化祭は目標に達した。</p> <p>③9月には、オーストラリアのマゼノド高校生18名が本校に来てホームスティしながら交流し、大きな成功を収めた。また、7月には中国の高校生が来校し交流した。</p> <p>※概ね、本年度の目標は達成されたと思われる。</p> <p>※今後の改善方策</p> <p>①運動系クラブの公式戦の日程等も生徒会新聞に載せ、生徒</p>

			<p>の意識を高める。</p> <p>②他校の文化祭の例を生徒に紹介し、文化祭への意識付けを高める。</p> <p>③大商学園高校展に多くの生徒に見に来て貰い、文化系部活動を活性化する。</p>
--	--	--	---

※平成 29 年度大商学園高校 学校評価委員の氏名

亀田章（地域の自治会関係者） 中野郁子（地域の自治会関係者） 高岡清美（地域の自治会関係者）
 溝口章仁（元 PTA 関係者） 新戸登代子（元 PTA 関係者） 古我知薫（平成 29 年度 PTA 会長）